

中期目標の達成状況に関する評価結果

(4年目終了時評価)

富山大学

令和3年6月

大学改革支援・学位授与機構

目 次

法人の特徴	1
(法人の達成状況報告書から転載)	
評価結果	
《概要》	3
《本文》	4
《判定結果一覧表》	17

法人の特徴

【理念】

富山大学は、地域と世界に向かって開かれた大学として、生命科学、自然科学と人文社会科学を総合した特色ある国際水準の教育及び研究を行い、人間尊重の精神を基本に高い使命感と創造力のある人材を育成し、地域と国際社会に貢献するとともに、科学、芸術文化、人間社会と自然環境との調和的発展に寄与する。

【目標】

富山大学が全学的に重視する目標は、教養教育と専門教育の充実を通じて、幅広い職業人並びに国際的にも通用する高度な専門職業人を養成することである。本学は、地域と世界の発展に寄与する先端的な研究を推進し、東アジア地域をはじめ諸外国の教育研究機関と連携しつつ、国際的な教育・研究拠点となる「知の東西融合」を目指す。また、地域と時代の課題に積極的に取り組み、社会の要請に応える人材を養成し、産学官の連携と地域への生涯学習機会の提供などを通じて、地域社会への貢献を行っていく。

上記の理念及び目標達成に向け、第3期中期目標期間には、主に以下のような目標を掲げ実施しており、また、これに伴い、全国的な教育研究拠点、地域活性化の中核的拠点等としての機能強化を図るための、全学的なマネジメント体制を確立することとしている。

教育	カリキュラム改革や教育方法の改善のほか、社会人の実践的・専門的な学び直し機能の強化など教育システムの改善
研究	本学の持つ強み・特色のある先端分野の機能強化を図るとともに、イノベーション創出を支える基盤的教育研究組織の整備・充実
社会貢献	「地（知）の拠点」を目指し、地域産業や医療機関との連携、地域を支える人材育成などによる地域社会への貢献

[個性の伸長に向けた取組（★）]

- 平成30年度入学生からの五福キャンパスでの一元的な教養教育の実施に向け、従来の教養教育科目等の再構築に留まらず、新たに地域教育、初年次教育、インクルーシブ教育に関する授業科目等の新設、地域志向科目の必修化等の、多様な授業科目の開講を行うとともに、教養教育の総括及び指導組織として、教養教育院を設置し、「全学出動体制」による安定的かつ実質的な運営体制を構築した。

(関連する中期計画 1-1-1-4、1-2-1-1)

- 本学の研究の強み・特色ある研究分野（脳科学、未病、材料）の、発展的で分野横断的な研究の推進に向けた支援を図るとともに、当該分野の発展的で分野横断的な研究の推進に向

けて、各組織をセンター化し、組織強化を行っている。

(関連する中期計画 2-1-1-1)

- 地域の活性化に向け、舟橋村の「子育て共助のまちづくり」事業、「魚津三太郎塾」等の地域再生人材育成事業を実施し、各地域の課題解決や地域資源活用の活性化に向けた取組を行うとともに、自治体及び関係企業が地域創生に向けて取り組めるための人材育成の取組や、企業側の採用に関する意識改革に向けた取組、地域再生人材育成事業等実施による地域社会の活性化に貢献する取組を実施している。

(関連する中期計画 3-1-1-1、3-1-1-3)

[戦略性が高く意欲的な目標・計画(◆)]

- 本学の強み・特色ある研究に人的資源、研究費の重点的配分を行い、生命科学及び自然科学で世界レベルの先端的、独創的、学際的・分野横断的研究を推進する。

(関連する中期計画 2-1-1-1)

- 地域活性化の中核拠点として、県内全ての地方公共団体や企業等と協働し、「地域における雇用創出、若者の地元定着率の向上」を目的とする事業計画を策定し、地元就職率10%向上(前期比)を数値目標に掲げ、地域に根ざした優秀な人材を県内に確保することにより、地域社会の活性化に寄与する。

(関連する中期計画 3-1-1-4)

評価結果

《概要》

第3期中期目標期間の教育研究の状況（4年目終了時）について、法人の特徴等を踏まえ評価を行った結果、富山大学の中期目標（大項目、中項目及び小項目）の達成状況の概要は、以下のとおりである。

＜判定結果の概要＞

中期目標（大項目）	判定	中期目標（小項目）判定の分布				
		【5】 特筆すべき実績を 上げている	【4】 優れた実績を上げ ている	【3】 進捗している	【2】 十分に進捗している とはいえない	【1】 進捗していない
I 教育に関する目標	【2】 おおむね順調 に進んでいる					
1 教育の内容及び教育の成果等に関する目標	【2】 おおむね順調 に進んでいる			1	2	
2 教育の実施体制等に関する目標	【3】 順調に進 んでいる			3		
3 学生への支援に関する目標	【3】 順調に進 んでいる			2		
4 入学者選抜に関する目標	【3】 順調に進 んでいる			1		
II 研究に関する目標	【3】 順調に進 んでいる					
1 研究水準及び研究の成果等に関する目標	【3】 順調に進 んでいる			4		
2 研究実施体制等に関する目標	【3】 順調に進 んでいる			2		
III 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標	【3】 順調に進 んでいる					
	なし			2		
IV その他の目標	【3】 順調に進 んでいる					
1 グローバル化に関する目標	【3】 順調に進 んでいる			3		

※ 大項目「I 教育に関する目標」及び「II 研究に関する目標」においては、学部・研究科等の現況分析結果による加算・減算を反映している。

《本文》

I 教育に関する目標（大項目1）

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成に向けておおむね順調に進んでいる

(判断理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標（中項目）4項目のうち、3項目が「順調に進んでいる」、1項目が「おおむね順調に進んでいる」であり、これらの結果に学部・研究科等の現況分析結果（教育）を加算・減算して総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) 教育の内容及び教育の成果等に関する目標（中項目1-1）

【評価結果】 中期目標の達成に向けておおむね順調に進んでいる

(判断理由) 「教育の内容及び教育の成果等に関する目標」に係る中期目標（小項目）3項目のうち、1項目が「進捗している」、2項目が「十分に進捗しているとはいえない」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 1-1-1	判定		判断理由
学士課程においては、教養教育と専門教育を充実し、新しい知識・情報・技術が重要性を増すグローバルな知識基盤社会に貢献できる、豊かな人間性と創造的問題解決能力を持つ人材を育成する。	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
	《特記事項》 (特色ある点) ○ 全学横断 PBL の先行実施 創造的問題解決能力を有する人材育成を行うため、各学部におけるカリキュラムの体系化を図るとともに、多様で柔軟な教育プログラムを構築するため、文理融合を視野に入れた学部横断型プログラムの検討を行い、同プログラムによる「全学横断 PBL」を令和4年度からの本格実施に先駆け、令和2年度に先行して実施している。(中期計画 1-1-1)		

小項目 1-1-2	判定		判断理由		
大学院課程においては、体系的で高度な専門教育を充実し、多様な課題に果敢に挑戦し解決でき、また、学位に応じた幅広い知識と多角的な視点に基づく業務・研究遂行能力を持ち国際的に活躍できる人材を育成する。	【2】	中期目標の達成に向けて十分に進捗しているとはいえない	○ 中期計画の判定において「中期計画を十分に実施しているとはいえない」がある。 ○ また、「領域横断的・キャリア教育の推進状況」に改善を要する点が指摘されたため、小項目の達成が十分に見込まれない。		
			≪特記事項≫		
			(改善を要する点) ○ 領域横断的・キャリア教育の推進状況 領域横断的な教育やキャリア教育を推進することについて、第3期中期目標期間4年目終了時点(令和元年度末)においても検討・試行の段階にあり、達成に向けてのロードマップが明らかではなく、十分な進捗状況にあるとは判断できない。(中期計画 1-1-2-1)		
小項目 1-1-3	判定		判断理由		
厳格な成績評価を行い、学位の質を保証する。	【2】	中期目標の達成に向けて十分に進捗しているとはいえない	○ 中期計画の判定において「中期計画を十分に実施しているとはいえない」がある。 ○ また、「成績評価基準改善の状況」に改善を要する点が指摘されたため、小項目の達成が十分に見込まれない。		
			≪特記事項≫		
			(改善を要する点) ○ 成績評価基準改善の状況 同一科目や同一科目群(分野等)における公平性の担保や、ゼミなどの少人数の授業科目における成績評価の妥当性等について、引き続き検討する必要がある。(中期計画 1-1-3-1)		

(2) 教育の実施体制等に関する目標 (中項目 1-2)

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(判断理由) 「教育の実施体制等に関する目標」に係る中期目標 (小項目) 3項目のうち、3項目が「進捗している」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 1-2-1	判定		判断理由
より質の高い教育を実現するために、教養教育及び専門教育の実施体制の強化を行う。	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
	≪特記事項≫		
	(特色ある点) ○ 学部の再編と都市デザイン学部の設置 社会的な教育ニーズに対応するとともに全学的な機能強化を図るため、平成30年度に入学定員1,800名のうち170名の学生定員に係る5学部の再編、経済学部及び工学部内の改組を行っている。また、同時に都市デザイン学部の新設を行っている。(中期計画 1-2-1-2)		
小項目 1-2-2	判定		判断理由
多様な人材育成のため、学生や社会人等が学びやすい教育環境の整備を推進する。	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
	≪特記事項≫		
	(特色ある点) ○ 新型コロナウイルス感染症下の教育 新型コロナウイルス感染症による影響下においても、学生の学習機会を確保するため、Moodle (オンデマンド) と Zoom (リアルタイム) を利用した遠隔授業を開始し、原則として時間割どおりに授業を開講している。遠隔授業の実施にあたり、学生に向けた遠隔授業受講ガイダンスの開催、教員向けの Moodle 講習会等の開催により、遠隔授業の整備を迅速に実施し、ICT を本格的に活用した教育の促進の取組を行っている。		

小項目 1-2-3	判定		判断理由
教育の質を不断に改善するためのシステムを整備する。	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
	《特記事項》		
	該当なし		

(3) 学生への支援に関する目標 (中項目 1-3)

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(判断理由) 「学生への支援に関する目標」に係る中期目標 (小項目) 2項目のうち、2項目が「進捗している」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 1-3-1	判定		判断理由
全ての学生が充実した学生生活を送れるように、教育・学生支援機構を中心として、経済支援、障害学生支援、留学生支援等も含めた総合的な支援・指導を行う。	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
	《特記事項》		
	(特色ある点) ○ 障害学生への支援 アクセシビリティ・コミュニケーション支援室において、身体の障害または発達障害傾向を有する学生に対し、入学試験における受験上の配慮等をはじめ、在学中の修学支援から就職活動に至るまで一貫して、学生のニーズに即したきめ細かな支援を実施している。さらに、卒業(修了)学生に対し、3年間継続してフォローアップを行っている。(中期計画 1-3-1-2)		

小項目 1-3-2	判定		判断理由
学生の自己成長を促し、社会が求める人材の輩出のため総合的な支援・指導を行う。	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
	《特記事項》		
	該当なし		

(4) 入学者選抜に関する目標（中項目 1-4）

<p>【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる</p> <p>(判断理由) 「入学者選抜に関する目標」に係る中期目標（小項目）が1項目であり、当該小項目が「進捗している」であることから、これらを総合的に判断した。</p>
--

小項目 1-4-1	判定		判断理由
平成26年12月22日中央教育審議会答申及び「高大接続改革実行プラン」平成27年1月16日文科科学大臣決定に基づき、入学者選抜は、大学入学後の教育課程と入学者選抜の評価方法との関係性や求める能力の評価方法が明確化されたアドミッション・ポリシーに基づき、知識偏重の入学者選抜から脱却し、能力・意欲・適性を多面的・総合的に評価・判定する入試改革を行う。	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
	《特記事項》		
	該当なし		

Ⅱ 研究に関する目標（大項目2）

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

（判断理由）「研究に関する目標」に係る中期目標（中項目）2項目のうち、2項目が「順調に進んでいる」であり、これらの結果に学部・研究科等の現況分析結果（研究）を加算・減算して総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

（1） 研究水準及び研究の成果等に関する目標（中項目2-1）

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

（判断理由）「研究水準及び研究の成果等に関する目標」に係る中期目標（小項目）4項目のうち、4項目が「進捗している」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 2-1-1	判定		判断理由
生命科学及び自然科学で世界レベルの先端的、独創的、学際的・分野横断的研究を推進するとともに、本学の強み・特色ある研究に重点的に研究支援を行う。	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
	<<特記事項>> （特色ある点） ○ 重点研究分野への支援 学長裁量経費等による重点研究分野の研究への集中的な支援により、研究の推進を図っている。さらに、研究組織をセンター化することにより、分野横断的な研究の推進に向けた体制強化を行っている。これにより、脳科学分野において科学研究基盤経費の特別推進研究の採択に繋がっている。（中期計画2-1-1-1） ○ 集中的支援による研究成果 重点研究分野に集中的な支援を実施し、異分野間研究者交流による研究の活性化を目的とした Toyama Science GALA の実施、「つくりあげよう おもしろい大学フォーラム」における卓越教授の対談等により研究意欲を醸成するなどの取組の結果、第3期中期目標期間の重点研究分野の年間論		

	文数平均は第2期中期目標期間の平均に比して18.9%増加（1,067報から1,269報）、令和元年度末の論文の被引用数は第2期中期目標期間の同時期に比して41.1%増加（平成25年度末1万929報から令和元年度末1万5,425報）している。（中期計画2-1-1-1）	
小項目 2-1-2	判定	
我が国有数の特色ある研究を推進する。	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している
	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。	
	《特記事項》	
	該当なし	
小項目 2-1-3	判定	
基礎的・基盤的研究を推進する。	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している
	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。	
	《特記事項》	
	該当なし	

小項目 2-1-4	判定		判断理由
研究成果を世界や地域に向けて発信し、広く社会に貢献する。	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
	《特記事項》		
	<p>(特色ある点)</p> <p>○ 医薬品産業への研究成果の還元 平成 30 年度から実施している「くすりのシリコンバレー「TOYAMA」創造コンソーシアム」において、産学官共同で、県内医薬品産業の強み（製剤・ドラッグデリバリーシステム）を活かした医薬品の研究開発を実施している。これにより医薬品産業への研究成果の還元だけでなく、産業化による若者の地元定着や首都圏の学生を対象としたサマースクール開催等による人材流入の促進を目指している。また、本事業の成果について、「フォーラム富山「創薬」研究会」において報告を行い、県内薬業界全体での情報共有を行っている。（中期計画 2-1-4-1、2-1-4-2）</p> <p>○ 地域産業界との連携 令和元年度から富山県、県内のアルミ産業界及び県内高等教育機関の連携により実施されている「とやまアルミコンソーシアム事業」において、複数企業等と共同で研究開発プロジェクトを実施している。水素の安定性に係る開発成果を特許申請したほか複数の技術・手法を開発し、インフラ等への技術利用による研究成果の社会還元を目指している。（中期計画 2-1-4-2）</p>		

(2) 研究実施体制等に関する目標 (中項目 2-2)

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる
 (判断理由) 「研究実施体制等に関する目標」に係る中期目標 (小項目) 2項目のうち、2項目が「進捗している」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 2-2-1	判定	判断理由
本学の強みや特色のある研究を更に推進するため、研究推進機構を中心として、戦略的に研究環境を整備する。	【3】 中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
	≪特記事項≫ (特色ある点)	
	○ 学生スーパーユーザーの養成 設備サポートセンターでは、大型設備の3キャンパス横断的共同利用体制の構築に向けた取組を行うとともに、大学院及び学部生で機器の基本的なメンテナンスや運用が可能なユーザー (スーパーユーザー) を養成するための育成プログラムを実施し、平成30年度は20名、令和元年度は9名の学生を認定している。(中期計画 2-2-1-2) ○ 和漢医薬学研究所の機能強化 和漢医薬学研究所の機能強化に向けた検討を行った結果、東西医薬学の融合を基盤とした次世代型医療科学の創生に向け、研究部門の統廃合を行い、また臨床応用部門、産官学連携部門及び附属教育研究施設として和漢医薬教育研修センターを新設している。(中期計画 2-2-1-3)	
小項目 2-2-2	判定	判断理由
若手研究者が創造性を発揮できる、自立的な研究環境を整備する。	【3】 中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
	≪特記事項≫	
	該当なし	

Ⅲ 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標(大項目3)

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(判断理由) 「社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標」に係る中期目標(小項目) 2項目のうち、2項目が「進捗している」であり、これらを総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

小項目 3-1-1	判定		判断理由
地域活性化の中核拠点として、地域連携推進機構を中心に自治体と連携し、教育・研究・社会貢献の分野において、地域社会の活性化に寄与する。	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
	《特記事項》		
	(特色ある点) ○ 自治体との協働による社会貢献 舟橋村の子育て共助のまちづくり事業において、村役場職員や参加企業社員に対する人材育成を行ったほか、公園プロジェクトの運営補助等も実施している。取組の結果、他の自治体等においてモデルケースとして講演等を行っているほか、同プロジェクトは同村への転入者アンケート等においても好評を得ている。また、平成30年度第34回都市公園等コンクール(日本公園緑地協会)において国土交通大臣賞を受賞している。(中期計画 3-1-1-1) ○ 地域課題解決型人材の育成 地域課題解決型人材育成プログラムでは、教養教育から専門教育にわたる3つの科目群全178科目を階層的に設置している。特に中核科目5科目はキャリア教育、アクティブ・ラーニング、学部を越えた学生間の学び合いの促進に向け、全学の教育改革の先導的な役割を果たすとともに、学生のコミュニティ・マインド醸成に寄与している。令和元年度には初の修了者1,059名を輩出し、地域課題解決型人材育成プログラム修了証を交付し、「未来の地域リーダー」の称号を授与している。(中期計画 3-1-1-2)		

	<p>○ 地域再生人材育成事業の高評価</p> <p>地域再生人材育成事業として、魚津三太郎塾、とやま呉西圏域共創ビジネス研究所、たなべ未来創造塾の事業を継続して実施し、修了者の第二創業率は68.3%となっている。また、一連の取組は、経済産業省第7回地域産業支援プログラム表彰事業（イノベーションネットアワード2018）の優秀賞、内閣府まち・ひと・しごと創生本部人材・組織の育成及び関係人口に関する検討会における新たな地域人材育成の先駆事例として教員が発表するなど、外部から評価されている。（中期計画3-1-1-3）</p>	
<p>小項目 3-1-2</p>	<p>判定</p>	<p>判断理由</p>
<p>地域の生涯学習の拠点として、地域社会に様々な学習機会を提供する。</p>	<p>【3】</p>	<p>中期目標の達成に向けて進捗している</p> <p>○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。</p>
<p>《特記事項》</p>		
<p>該当なし</p>		

IV その他の目標（大項目 4）

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

（判断理由）「その他の目標」に係る中期目標（中項目）が1項目であり、当該中項目が「順調に進んでいる」であることから、これらを総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

（1） グローバル化に関する目標（中項目 4-1）

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

（判断理由）「グローバル化に関する目標」に係る中期目標（小項目）3項目のうち、3項目が「進捗している」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 4-1-1	判定		判断理由
日本人学生・教職員の海外派遣及び外国からの留学生・研究者の受入れの双方を増加させる。	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
	《特記事項》		
	該当なし		

小項目 4-1-2	判定		判断理由
<p>学術や人材の国際交流を推進し、国際的人材の育成や優れた研究成果の発信を盛んにして国際的に貢献する。</p>	<p>【3】</p>	<p>中期目標の達成に向けて進捗している</p>	<p>○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。</p>
<p>《特記事項》</p>			
<p>(特色ある点)</p> <p>○ 脳科学分野の国際シンポジウム 重点研究分野である脳科学分野における国際シンポジウム Toyama Forum for Academic Summit on “Dynamic Brain” を主催している。国内外から研究者を招へいし、招待講演（海外研究者 5 件、国内研究者 12 件）、最先端の研究の情報交換及び議論を行ったほか、神経科学分野における若手研究者の研究推進に向けたポスターセッション等を行っている。（参加者約 160 名）（中期計画 4-1-2-1）</p>			
小項目 4-1-3	判定		判断理由
<p>グローバル化に対応した教育を促進し、国際的に活躍できる人材を育成する。</p>	<p>【3】</p>	<p>中期目標の達成に向けて進捗している</p>	<p>○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。</p>
<p>《特記事項》</p>			
<p>(特色ある点)</p> <p>○ グローバル化に向けた教育環境の整備 英語による授業の増加やシラバスの英語化を図るとともに、短期留学に対応しやすい学事暦の柔軟化の検討を行った結果、英語による授業開講数は、学士課程では平成 29 年度の 19 から平成 30 年度の 79、大学院課程では平成 29 年度の 25 から平成 30 年度の 87 に増加している。クォーター制については、都市デザイン学部が学部開設に合わせ平成 30 年度から、経済学部と芸術文化学部が令和元年度から導入している。（中期計画 4-1-3-1）</p>			

《判定結果一覧表》

中期目標(大項目)	判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値
中期目標(中項目)		
中期目標(小項目)		
中期計画		
大項目1 教育に関する目標	【2】	おおむね順調に進んでいる 2.89 うち現況分析結果加算点 0.05
中項目1-1 教育の内容及び教育の成果等に関する目標	【2】	おおむね順調に進んでいる 2.33
小項目1-1-1 学士課程においては、教養教育と専門教育を充実し、新しい知識・情報・技術が重要性を増すグローバルな知識基盤社会に貢献できる、豊かな人間性と創造的問題解決能力を持つ人材を育成する。	【3】	進捗している 2.00
中期計画1-1-1-1 【1】 平成29年度中に科目番号制(ナンバリング)を導入することにより、学修の段階や順序等を明示し、中期目標期間中に体系的な教育課程によりカリキュラムを編成する。	【2】	中期計画を実施している
中期計画1-1-1-2 【2】 授業のための事前準備・授業計画・事後展開や科目同士の関連性等をシラバスに明記することにより、学生の主体的な学修を促進する。	【2】	中期計画を実施している
中期計画1-1-1-3 【3】 各学部の教育方針にあったキャリア形成を充実させるため、教育課程全体を通じたキャリア教育の視点から身に付けるべき能力を明確化し、体系的なキャリア教育を編成する。	【2】	中期計画を実施している
中期計画1-1-1-4(★) 【4】 全学的な協力体制の下、平成29年度中に教養教育に関するカリキュラムや教育方法について再構築し、五福キャンパスでの一元的な教養教育を中期目標期間中に完成させる。	【2】	中期計画を実施している
小項目1-1-2 大学院課程においては、体系的で高度な専門教育を充実し、多様な課題に果敢に挑戦し解決でき、また、学位に応じた幅広い知識と多角的な視点に基づく業務・研究遂行能力を持ち国際的に活躍できる人材を育成する。	【2】	十分に進捗しているとはいえない 1.67
中期計画1-1-2-1 【5】 各専門領域における大学院教育を充実させるとともに、領域横断的な教育やキャリア教育を推進するため、各研究科等が連携してカリキュラムの編成を行い実施する。	【1】	中期計画を十分に実施しているとは言えない
中期計画1-1-2-2 【6】 高度な専門性に加え、現代社会のニーズに応える幅広い課題設定・課題解決能力を育む教育を推進するため、各研究科において体系的で実質化された大学院カリキュラムの編成を行い実施する。	【2】	中期計画を実施している
中期計画1-1-2-3 【7】 セミナー、研究会や学会等に学生を積極的に参加させ、研究者との交流を通じて、専門分野の知識と技能を身につけさせるとともに、コミュニケーション能力を強化する。	【2】	中期計画を実施している
小項目1-1-3 厳格な成績評価を行い、学位の質を保証する。	【2】	十分に進捗しているとはいえない 1.00
中期計画1-1-3-1 【8】 シラバス等に明示した評価基準及びGPA(Grade Point Average)制度の導入により、成績評価の明確化、厳格化を図るとともに、GPA制度を活用した進級・卒業要件等の検討を行い明文化する。	【1】	中期計画を十分に実施しているとは言えない
中項目1-2 教育の実施体制等に関する目標	【3】	順調に進んでいる 3.00
小項目1-2-1 より質の高い教育を実現するために、教養教育及び専門教育の実施体制の強化を行う。	【3】	進捗している 2.00
中期計画1-2-1-1(★) 【9】 教養教育の新カリキュラムを平成29年度中に完成させ、五福キャンパスでの一元的な教養教育を実施するための教員再配置を行うとともに、全学の教養教育に責任を負う教養教育院(仮称)を設置する。	【2】	中期計画を実施している

富山大学

中期目標(大項目)		判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値	
中期目標(中項目)				
中期目標(小項目)				
中期計画				
	中期計画1-2-1-2 【10】全学的な機能強化を図る観点から、学生定員の見直しや学部・大学院の教育課程及び組織のあり方、規模の見直しを行う。	【2】	中期計画を実施している	
小項目1-2-2	多様な人材育成のため、学生や社会人等が学びやすい教育環境の整備を推進する。	【3】	進捗している	2.50
中期計画1-2-2-1	【11】附属図書館の機能を充実させるため、図書館の活用講習会、利用者の相談サポート、ウェブを活用したナビゲート機能の提供を行う等、多様な利用形態に対応した学生や社会人が学びやすい環境を整備する。	【3】	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	
中期計画1-2-2-2	【12】学生の主体的な学修や社会人の学び直しを支援するために、ICT (Information and Communication Technology) 等を活用した双方向型の授業や自習環境を更に整備する。	【2】	中期計画を実施している	
小項目1-2-3	教育の質を不断に改善するためのシステムを整備する。	【3】	進捗している	2.00
中期計画1-2-3-1	【13】教育に関する基本データの一元管理により、教育を分析・評価するシステムを構築し、教育の改善に関するPDCAサイクルを確立させ、教育の改善・強化を行う。	【2】	中期計画を実施している	
中項目1-3	学生への支援に関する目標	【3】	順調に進んでいる	3.00
小項目1-3-1	全ての学生が充実した学生生活を送れるように、教育・学生支援機構を中心として、経済支援、障害学生支援、留学生支援等も含めた総合的な支援・指導を行う。	【3】	進捗している	2.00
中期計画1-3-1-1	【14】学生と教員とのコミュニケーションを密にし、1年次から学生に対し指導教員等を配置するとともに、学生支援センター、保健管理センター等と連携しながら、学修と学生生活を支援する。	【2】	中期計画を実施している	
中期計画1-3-1-2	【15】経済的に困窮している学生、障害学生、留学生、課外活動について、アンケート等によるニーズ把握、事業内容・予算配分の見直し、富山大学基金の活用や支援体制の整備等により、支援を充実する。	【2】	中期計画を実施している	
中期計画1-3-1-3	【16】学生の心身や安全・安心確保のため、機会を捉えた指導・支援を行う。	【2】	中期計画を実施している	
小項目1-3-2	学生の自己成長を促し、社会が求める人材の輩出のため総合的な支援・指導を行う。	【3】	進捗している	2.00
中期計画1-3-2-1	【17】学生への就職支援、キャリア形成の充実を行うとともに、県内自治体や企業等との連携を強化し、地元就職を促進するために、富山県内企業等でインターンシップ(単位修得可能)を受講する学生数を10%向上(前期比)させるほか、卒業・修了者の3年以内の離職率を減少させるために、マッチング支援やインターンシップの強化を行う。	【2】	中期計画を実施している	
中項目1-4	入学者選抜に関する目標	【3】	順調に進んでいる	3.00
小項目1-4-1	平成26年12月22日中央教育審議会答申及び「高大接続改革実行プラン」平成27年1月16日 文部科学大臣決定に基づき、入学者選抜は、大学入学後の教育課程と入学者選抜の評価方法との関係性や求める能力の評価方法が明確化されたアドミッション・ポリシーに基づき、知識偏重の入学者選抜から脱却し、能力・意欲・適性を多面的・総合的に評価・判定する入試改革を行う。	【3】	進捗している	2.00
中期計画1-4-1-1	【18】高大接続改革実行プランに基づき、アドミッション・ポリシーの見直しを行うとともに、大学入学希望者の能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価できる大学入学者選抜方法の内容を平成30年度までに決定し、平成33年度入試から実施する。	【2】	中期計画を実施している	

中期目標(大項目)	判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値	
中期目標(中項目)			
中期目標(小項目)			
中期計画			
大項目2 研究に関する目標	【3】	順調に進んでいる うち現況分析結果加算点 0.00	3.00
中項目2-1 研究水準及び研究の成果等に関する目標	【3】	順調に進んでいる	3.00
小項目2-1-1 生命科学及び自然科学で世界レベルの先端的、独創的、学際的・分野横断的研究を推進するとともに、本学の強み・特色ある研究に重点的に研究支援を行う。	【3】	進捗している	3.00
中期計画2-1-1-1(★)(◆) 【19】本学の強み・特色ある研究を、世界トップレベルに達成させるために、人的資源の配分、研究費の重点配分等を行い、次に掲げる分野の論文数・論文の被引用数を10%向上(前期比)させる。 ・医薬関連分野の臨床医学、神経科学、薬学の応用研究 ・理工関連分野の材料、化学、エネルギー、環境・防災、生命科学に関わる科学領域で先端的な研究 ・和漢医薬学と先端医薬学を融合した東西医薬学を基盤とした研究	【3】	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	
小項目2-1-2 我が国有数の特色ある研究を推進する。	【3】	進捗している	2.00
中期計画2-1-2-1 【20】経済、社会、文化、芸術などの分野で優れた研究を推進し、論文(著書)数等を前期より増加させる。	【2】	中期計画を実施している	
小項目2-1-3 基礎的・基盤的研究を推進する。	【3】	進捗している	2.00
中期計画2-1-3-1 【21】優れた基礎的・基盤的研究を推進するため、コーディネーターを配置し、研究内容や申請に関するアドバイス等を行うことにより、科学研究費助成事業申請数を10%向上(前期比)させ、採択数を増加させる。	【2】	中期計画を実施している	
小項目2-1-4 研究成果を世界や地域に向けて発信し、広く社会に貢献する。	【3】	進捗している	2.00
中期計画2-1-4-1 【22】研究の成果を世界と全国に向けて、研究者や一般市民等の対象者に応じ、次に掲げる取組により発信する。 ・論文の学術誌への発表や研究成果集等の発行 ・公開講座等の市民向け講座を60講座以上開講 ・研究会、講演会等の開催や広報活動の実施 ・各学部開設授業のうち、公開可能な科目の半数以上をオープン・クラス(公開授業)として公開	【2】	中期計画を実施している	
中期計画2-1-4-2 【23】自治体・企業・高等教育機関との共同研究・受託研究やプロジェクト研究等を積極的に行い、共同研究・受託研究件数を増加(前期比)させるとともに研究成果を社会に還元する。	【2】	中期計画を実施している	
中項目2-2 研究実施体制等に関する目標	【3】	順調に進んでいる	3.00
小項目2-2-1 本学の強みや特色のある研究を更に推進するため、研究推進機構を中心として、戦略的に研究環境を整備する。	【3】	進捗している	2.00
中期計画2-2-1-1 【24】学術研究用設備整備マスタープラン等の検証・見直しを行い、共同利用に資する研究設備を計画的に整備する。	【2】	中期計画を実施している	
中期計画2-2-1-2 【25】本学の施設、設備等を利用する共同研究や産学連携を支援する。	【2】	中期計画を実施している	

富山大学

中期目標(大項目)		判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値	
中期目標(中項目)				
中期目標(小項目)				
中期計画				
中期計画2-2-1-3	【26】和漢医薬学総合研究所は、全学的な東西医薬学の融合研究を推進し、全国の和漢医薬学研究の中核的拠点を担う役割・機能を維持向上させ、研究の成果に係る論文数を前期よりも増加させるとともに、本学の目標・特色・強みである「知の東西融合」を実現するための機能強化を行う。	【2】	中期計画を実施している	
小項目2-2-2	若手研究者が創造性を発揮できる、自立的な研究環境を整備する。	【3】	進捗している	2.00
中期計画2-2-2-1	【27】博士課程を修了した若手研究者の研究環境を整備し、テニュアトラック制度や学長裁量経費等により、若手研究者の育成を行う。	【2】	中期計画を実施している	
大項目3	社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標	【3】	順調に進んでいる	3.00
		なし	—	—
小項目3-1-1	地域活性化の中核拠点として、地域連携推進機構を中心に自治体と連携し、教育・研究・社会貢献の分野において、地域社会の活性化に寄与する。	【3】	進捗している	2.25
中期計画3-1-1-1(★)	【28】地域のシンクタンクとして、自治体等と連携し、地域課題に取り組む仕組みを構築し、協働して地域課題解決に取り組む。	【2】	中期計画を実施している	
中期計画3-1-1-2	【29】地域を志向した教育を行うための教育プログラムを設定することにより、教育改革を推進し、地域ニーズに応じた人材を育成する。	【2】	中期計画を実施している	
中期計画3-1-1-3(★)	【30】地域イノベーションの創出に取り組むとともに、産業界、自治体等との協働により高い専門性、経営能力等を兼ね備えた人材を育成する。	【3】	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	
中期計画3-1-1-4(◆)	【31】地域社会の発展や活性化に資する教育研究の推進や、地域との協働を通して、地域における雇用を創出するとともに、卒業・修了者の地元就職率を10%(前期比)向上させる。	【2】	中期計画を実施している	
小項目3-1-2	地域の生涯学習の拠点として、地域社会に様々な学習機会を提供する。	【3】	進捗している	2.00
中期計画3-1-2-1	【32】地域の生涯学習の拠点として、若者世代、現役・子育て世代、シニア世代のそれぞれのニーズに対応した、多様な学習機会を提供する。	【2】	中期計画を実施している	
中期計画3-1-2-2	【33】地域の生涯学習機関(博物館、図書館や公民館等)と連携し、地域の生涯学習を支援する。	【2】	中期計画を実施している	
大項目4	その他の目標	【3】	順調に進んでいる	3.00
中項目4-1	グローバル化に関する目標	【3】	順調に進んでいる	3.00
小項目4-1-1	日本人学生・教職員の海外派遣及び外国からの留学生・研究者の受入れの双方を増加させる。	【3】	進捗している	2.00
中期計画4-1-1-1(*)	【34】大学の基金等を活用し、日本人学生・教職員の海外派遣及び外国からの留学生・研究者の受入れの双方を支援する。派遣及び受入れのバランスに留意し、特に日本人学生・教職員の海外派遣を戦略的・重点的に支援し増加させる。	【2】	中期計画を実施している	

中期目標(大項目)		判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値	
中期目標(中項目)				
中期目標(小項目)				
中期計画				
小項目4-1-2	小項目4-1-2 学術や人材の国際交流を推進し、国際的人材の育成や優れた研究成果の発信を盛んにして国際的に貢献する。	【3】	進捗している	2.00
中期計画4-1-2-1	中期計画4-1-2-1 【35】大学の基金等を活用し、若手研究者の海外派遣、優れた研究者の招聘、国際学術集会開催などを戦略的に支援し、学術と人材の国際交流を増加させる。	【2】	中期計画を実施している	
小項目4-1-3	小項目4-1-3 グローバル化に対応した教育を促進し、国際的に活躍できる人材を育成する。	【3】	進捗している	2.00
中期計画4-1-3-1	中期計画4-1-3-1 【36】グローバル社会で活躍できる人材を育成するために、教育プログラムの多様化や学事暦の柔軟化を行い、学生の海外留学や海外でのインターンシップを推進する。	【2】	中期計画を実施している	

※ 中期計画に表示されている記号が示す内容は、それぞれ以下のとおり。

- (★):「個性の伸長に向けた取組」に特に関連する中期計画(「法人の特徴」参照)
 (◆):文部科学省国立大学法人評価委員会に承認された「戦略的かつ意欲的な目標・計画」
 (*):新型コロナウイルス感染症による影響を特に考慮して分析・判定した中期計画

※ 「下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値」のうち、大項目「教育」「研究」の数値については、中項目の判定に使用した数値をそのまま大項目ごとに平均して算出し、その上で学部・研究科等の現況分析結果による加算・減算を行っている。

【教育】 達成状況評価

現況分析:「教育」

$$\left(\begin{array}{c} \text{当該法人における} \\ \text{大項目「教育に関する目標」} \\ \text{の中項目の平均値} \end{array} \right) + \left\{ \left(\begin{array}{c} \text{当該法人における} \\ \text{(I 教育活動の状況)、} \\ \text{(II 教育成果の状況)} \\ \text{の全判定結果の平均値} \end{array} \right) - 2^{\text{注1}} \right\} \times \text{係数 } 0.5^{\text{注2}}$$

【研究】 達成状況評価

現況分析:「研究」

$$\left(\begin{array}{c} \text{当該法人における} \\ \text{大項目「研究に関する目標」} \\ \text{の中項目の平均値} \end{array} \right) + \left\{ \left(\begin{array}{c} \text{当該法人における} \\ \text{(I 研究活動の状況)、} \\ \text{(II 研究成果の状況)} \\ \text{の全判定結果の平均値} \end{array} \right) - 2^{\text{注1}} \right\} \times \text{係数 } 0.5^{\text{注2}}$$

注1 現況分析は4段階判定となっており、【2】判定(相応の質にある)が基準となる判定のため、現況分析の教育または研究の全判定結果の平均値が2を上回る場合は加算、下回る場合は減算となる。

注2 現況分析結果の加算・減算に当たっては、達成状況の評価結果であることを考慮し、係数「0.5」を設定する。
 なお、加算・減算後の数値は小数点第3位を切り捨て処理しているため、現況分析結果加算点と教育または研究に関する大項目における判定の平均値の合算値が一致しないことがある。